

〇みどりの拠点

みどりの拠点として下記が挙げられる。

- ・都市公園：中之島公園、靱公園、大阪城公園などの一定規模以上の都市公園は、都市内において、ゆとりと潤いを提供するとともに、視点場となり得る空間である。
- ・風致地区：大川、夕陽ヶ丘、帝塚山周辺などのように、ゆたかな樹木が保全される風致地区は、公園同様潤いのある空間を形成している。



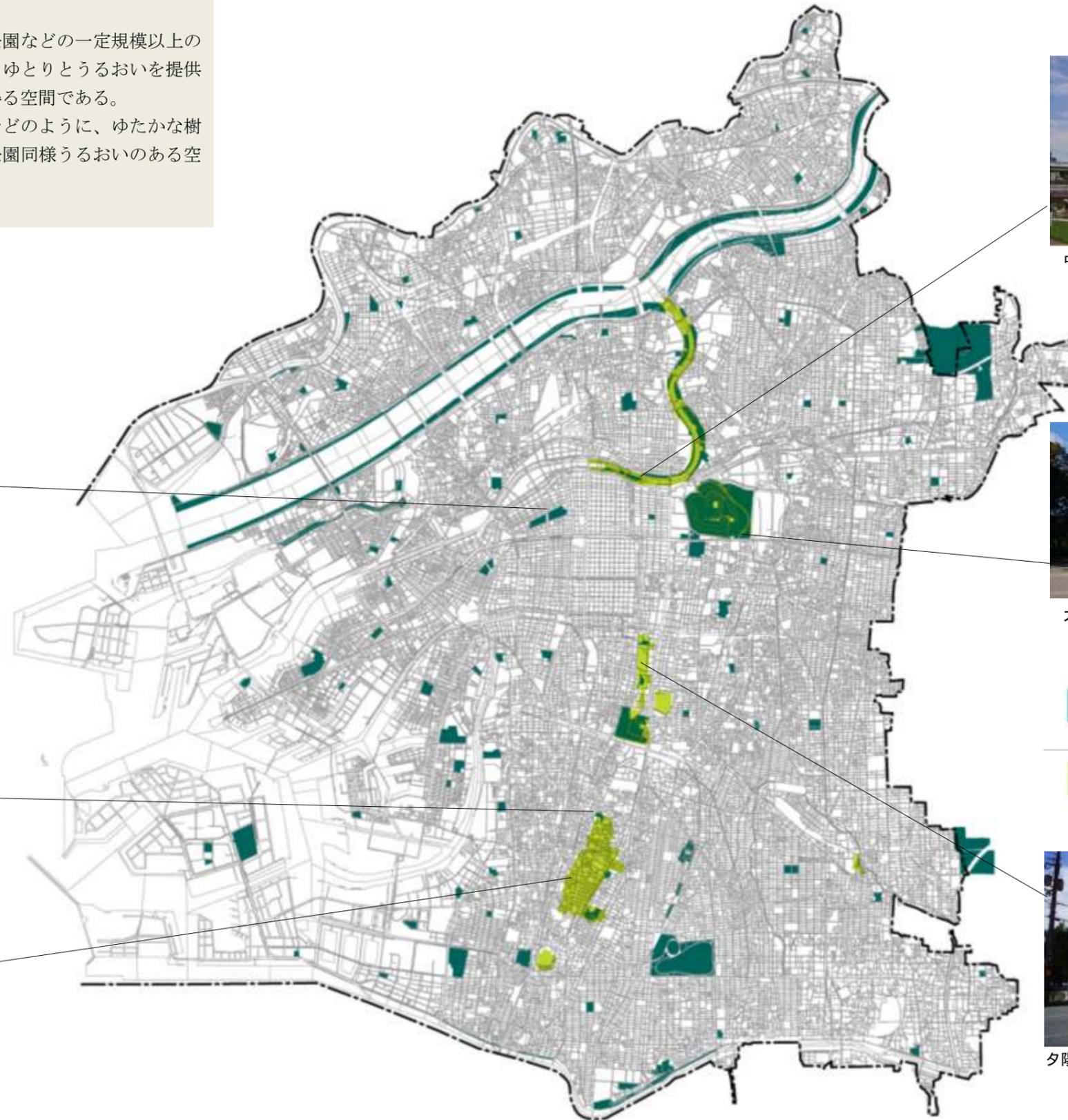
靱公園



桃が池公園



帝塚山の住宅街



中之島公園



大阪城公園

都市公園(1ha以上)

風致地区



夕陽ヶ丘(崖線)

【出典：大阪市都市計画GISデータ】

○にぎわいの拠点

- ・大規模な小売店舗は大阪駅周辺、ミナミ、天王寺駅周辺に多く見られる。
- ・商店街（アーケード）については、駅等の周辺に多く分布している。
- ・U S Jや海遊館、大阪城、道頓堀、新世界などの観光地が市内に点在している。



グランフロント大阪



海遊館



なんばパークス



北新地



心齋橋筋商店街



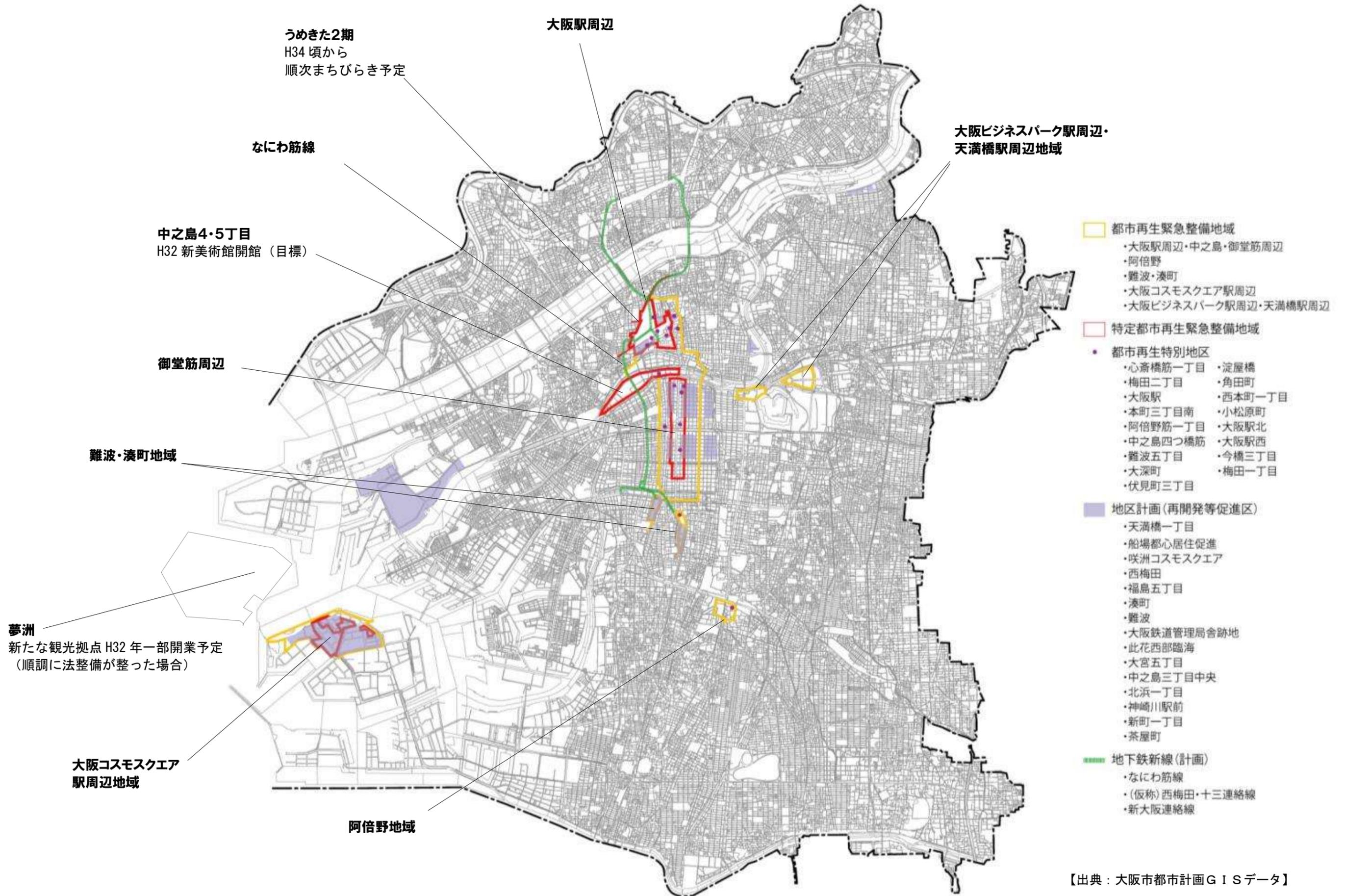
Q'sモール

- 主な観光地・繁華街
- 大型小売店 (10,000㎡以上)
- 商店街(アーケード)



新世界

○都市開発図



【出典：大阪市都市計画GISデータ】

○都市開発の方針

大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域：関西の発展をリードする新しいまちの形成

○大阪都市圏の中心部に位置する大阪都心地域において、既存の都市基盤の蓄積を生かしつつ、関西の都市再生を牽引する風格ある国際的な中枢都市機能集積地の形成を目指す。

大阪駅周辺

- 国内外の交通の要衝地である特性を活かし、うめきた地区、大阪駅及び大阪駅南側地区において、道路上空の建築敷地としての活用などにより海外企業の誘致に向けた環境整備につながる都市開発等を促し、国際的な中枢拠点機能等の集積をさらに促進
- うめきた先行開発区域では、上記機能の集積や立地特性を生かし、「感性」と「技術」が融合し新たな知的価値の創出をめざす知的創造拠点ナレッジキャピタルを形成
- 都市開発にあわせて、大規模災害時における滞在者や従業員等のターミナルへの集中による混乱回避や一斉帰宅の抑制につながる一時退避施設等の都市防災機能を整備促進

うめきた2期（まちづくり方針）

- まち全体を包み込む「みどり」がここにしかない新しい都市景観を創出し、多様な活動、新しい価値を生み出す源となり、世界の人々を惹きつける。
- 世界からの人材、技術を集積・交流させ、新しい産業・技術・知財を創造することで新たな国際競争力を獲得し、我が国の成長エンジンとして世界をリードする「イノベーション」の拠点となる。

中之島4・5丁目

- 中之島4丁目では、これまでの業務・文化・MICE機能の集積に加え、2020年度オープンをめざした新美術館の整備を核に、未利用地の土地利用転換を図り、ハイエンド人材の育成に資する大学等の高等教育施設を導入するなど、これらが連携・調和し相乗効果を発揮するまちづくりを実現
- あわせて、中之島5丁目では都市型MICE機能、国際学校、レジデンス等の導入など国際ビジネスサポート機能の拡充につながる都市開発を促進し、国際的な業務・文化・学術・交流拠点を形成

御堂筋周辺

- 御堂筋沿道での高さ制限の規制緩和等により、高規格オフィスの実現など業務機能の高度化や、ビジネスサポート機能として的高级賃貸レジデンスの導入など、多様な機能をあわせ持つ国際レベルのビジネス地区を形成
- また、心齋橋エリアでは、インバウンド機能が充実した先進的商業空間を創出し、周辺と一体となった世界の観光拠点を形成

大阪ビジネスパーク駅周辺・天満橋駅周辺地域

- 充実した交通インフラ、豊かな自然環境等の立地条件を活かし、環境への配慮や防災性の向上を図りながら、既に集積している高次都市機能のリノベーション（機能更新）を進め、魅力ある複合的な国際拠点の形成を目指す。
- 大阪のシンボルであり本市の経済成長戦略上、重要な拠点である大阪城公園の魅力の向上の取り組みと併せ、にぎわい創出を図り、大阪城公園の玄関口としても魅力ある複合的な国際拠点の形成を目指す。

大阪城公園のイメージ



難波・湊町地域：ミナミのにぎわい創出に向けた交流拠点の形成

- 関西国際空港に直結する大阪の南の玄関口にふさわしい、人・情報・文化が交流し発信する新しい拠点の形成を目指す。

難波駅前のイメージ



阿倍野地域：にぎわいのある職住遊の複合拠点の形成

- 天王寺・阿倍野ターミナルに近接する立地を生かし、商業・娯楽・居住・宿泊等の機能が複合した、個性ある拠点形成を目指す。



天王寺公園のイメージ

大阪コスモスクエア駅周辺地域：ITインフラが整い、臨海部の特性を活かした研究開発拠点の形成

- 大阪臨海部における新たな都心形成の一翼を担うため、親水性の確保など海辺の特性を生かしつつ、高度な機能を有する都市拠点の形成を目指す。

なにわ筋線

○JR阪和線、南海本線等を介し、関西国際空港連絡線に直結する路線であり、JR新大阪および京阪神圏の各拠点都市から関西国際空港へのアクセス機能の強化に資する路線である。

夢洲

夢洲の導入機能は以下のとおり

- ・新たな観光拠点の形成
- ・スマートシティの実現
- ・産業・物流拠点化
- ・都市再生機能の確保
- ・インフラ機能の拡充

●景観（空間デザインの考え方）

- パブリックデザインとしては、南（水際線）に向けて開放的な眺望を有し、まちの骨格を形成する中央軸を設定する。また、ゆとりのある歩道空間や緑の空間を有する公共空間や鉄道駅と一体となった夢洲のシンボルとなる駅前広場を設ける等、景観やデザインに配慮する。
- 観光ゾーンについては、水都大阪のシンボルとしての「水」と、バイエリアをネットワークする「みどり」により、大阪・関西の玄関口にふさわしく、観光拠点の新しい顔となる魅力的な空間を創出する。
- 産業・物流ゾーンについては、観光ゾーンとの境界にバッファ機能を設けつつ、建築物の配置や外観、交通動線などについても十分配慮する。



【出典：夢洲まちづくり構想（案）中間とりまとめ（平成27年2月9日）】